

南あわじ市の木

くろまつ 黒松



[City Tree : Black Pine]

マツ科 マツ属

学名 : Pinus thunbergii (ピナス ツンベルギー)

別名 : オマツ、オンマツ

1、黒松の解説

マツ科の針葉樹で常緑高木。海岸に多く、庭木、盆栽、並木、防風林にも利用されます。樹皮は黒褐色で、特に淡路黒松の樹皮の切れ込みが深い。葉は濃緑色で2本が対になっています。

一般的にアカマツよりも剛強で、重くて堅いといわれています。アカマツの「女松(めまつ)」に対して、クロマツを「男松(おまつ)」とも呼びます。かつては、建築用構造材(梁、根太、板類)などに用いられていました。

本州、四国、九州、さらに朝鮮半島の南部沿岸地域に分布しています。



2、シンボルツリーとしての選定理由

(1)歴史に刻まれた自然遺産があります。

全国的に知られる慶野松原は、昭和3年に日本の名勝に指定され、古くは柿本人麻呂らにより「万葉集」に詠まれ、風光明媚で知られた景勝地です。約5万本の淡路黒松が生い茂り、白い砂浜が約2.5 kmにおよぶ瀬戸内海でも随一の白砂青松の松原が存在します。特に郷土個体である「淡路黒松」による磯馴れ松そなの群生が特徴とされていました。

古より先人たちが守り育ててきた自然遺産として歴史を積み重ねてきました。

(2)黒松が群生する全国有数の景勝地があります。

慶野松原は、「日本の渚百選」「日本の水浴場88選」「日本の夕陽百選」「日本の快水浴場百選 同特選(10箇所)」に選ばれています。

また、吹上浜も慶野松原とともに「日本の白砂青松百選」に選ばれており、南あわじ市の重要な観光拠点及び自然景観として位置づけられ、市民の憩いの場とともに、観光振興、地域活性化の一翼を担っています。

(3)黒松が枯渇しているため、保存・管理の機運を高める必要があります。

慶野松原や吹上の浜に群生し、市内各地に自生していましたが、環境の変化等により極端に減少しています。また、市内各地域に自然資産として存在した「八木の並松、天皇の松、御所の松、一本松、ゆるぎ松、千手の松、ここの松」などの大木がほとんどなくなりました。

御原中学校、西淡ライオンズクラブ、淡路三原ロータリークラブなど市民や民間団体が慶野松原等を守る活動を行ってきましたが、関連性の高い海浜生物の保全と併せて、今後もより一層の保存・管理の機運を高める必要があります。